

「パブリック・コメント制度」提出意見に対する考え方

1 案件名	越前市都市計画マスタープラン（案）について
2 実施日	平成19年12月15日(土)～平成20年1月10日(木)
3 趣旨	<p>(計画の目的と役割) 都市計画マスタープランは、都市計画法に基づいて定める計画で、誰もが住み続けたいと思える魅力あるまちを創造するため、まちの将来像や進むべき方向性を明らかにすることを目的とします。また、実現していくためのまちづくりに関する総合的な指針としての役割を担います。</p> <p>(これまでの経緯) 市では、学識経験者、各種団体の代表者等からなる「都市計画マスタープラン策定委員会」を設置し、昨年度から9回の会議を開催し議論を重ねてきました。平成19年1月には中間報告として、パブリックコメントの実施や説明会を開催し、市民の皆さんの意見をいただきました。</p> <p>(まちづくりの基本理念) 「持続可能な定住都市の形成」 これまでの拡散型の都市構造では、都市の持続性に大きな負荷を与えることが確実です。 これからのまちづくりは、適正な規制・誘導を行い、既存のストックを最大限に活用したコンパクトなまちを形成することを基本とします。 平成20年3月の策定を目指して、パブリック・コメントを実施いたしました。</p>
4 意見提出者数（件数）	7人（14件）

5 意見に対する考え方

【土地利用について】

意見概要	考え方・対応
コンパクトなまちづくりは良いが、買い物客は価格の差で郊外の大型店に流れていくと思います。	・ご意見にありましたように、人口減少・少子高齢化社会にあっては、今ある都市施設を有効に活用した“持続可能なコンパクトなまち”を目指すことが必要と考えております。また一般的な消費者の心情としては、より価格の安い商品を求めることはあるかと思いますが、郊外の大規模な集客施設については、広域から集客することにより、周辺の道路環境等に大きな影響を与えるため、引き続き規制していく必要があると考えております。

<p>第1、2種住居地域で農業が行なわれていては都市化が望めないので、用途を廃止するとともに、農家が相続しやすくするべきだと思います。</p>	<p>・ご意見にありましたように、用途地域内の市街地整備(都市化)がされていない農地については、従来の団地的な宅地開発ではなく、例えば菜園付き住宅のような新たな居住環境を作ることも必要だと考えております。このため住民合意による住みよい街づくり推進条例や都市計画法の地区計画制度も活用しながら、民間開発等を適正に規制誘導していきたいと考えております。</p>
<p>中心市街地の人口は1万人以下であり、観光都市化は望めないと思います。</p>	<p>・中心市街地は多様な都市機能や交通機能が集積する利便性の高い地区であり、まちなか居住環境の整備等を推進することにより、にぎわいを創出し、越前市らしいまちなか観光を推進できるものと考えております。</p>

【下水道について】

意見概要	考え方・対応
<p>現在合併浄化槽が取付けてあるところは、急に公共下水道へ切り替えることは出来ないと思います。 住民にとって公共下水道の整備は非常に重要であり、事業のまとめ役として専門の委員(建設、不動産業者等)を設置し、まとめた業者に優先して工事をさせてはどうか。</p>	<p>・ご意見にありましたように下水道の整備は、公共用水域の水質改善と快適な水環境を創出する上で重要な役割を担っております。下水道へ接続する際の助成制度としては融資制度や奨励金(但し、供用開始の告示後3年以内の接続)がありますので活用いただきたいと思います。 ・公共事業を施行する上で、透明性の確保や効率性を追求することが重要でありますので、特定の者に対し優先して工事を施工させることは出来ないと考えております。</p>

【交通ネットワークについて】

意見概要	考え方・対応
<p>コンパクトシティを目指すのならば、のろっさバスの本数、コースをもっと使いやすくしてほしい。現在は、年配の方が通院するためだけの使用目的となっている。中心市街地に人を集めるためには、もっと利用しやすくするべきです。</p> <p>赤坂町に住んでいるが、交通の便が非常に悪い。現在はバスの本数も朝夕一本ずつのみである。マイカーブームの時代だが、行政のほうでバスの本数を増やしてほしい。</p>	<p>・市民バスにつきましては、民間事業者による路線バスの運行のない交通の不便な地域に住む人に対し、最小限の移動手段を提供し、通院、買い物等の日常生活を支援することを目的に運行いたしております。運行ルートや本数等につきましては、H17～18年度において、住民や利用者のアンケート調査、利用者グループインタビュー、全区長への意見照会等を行う中で実験運行を行い、H19年4月より本格運行をいたしたところでありますので、ご理解願います。</p> <p>なお、これからの地域公共交通のあり方については、市地域公共交通会議の中でも十分に議論してまいりたいと考えております。</p>
<p>少子化の中で、北陸新幹線は必要ないと思います。</p>	<p>・人口減少社会の到来により、また大都市圏と地方の格差が広がる中、地域社会の活性化方策の一つとして交流人口を増加させることは重要であり、新たな交流を生むための新幹線や高速道路のインフラ整備は重要な事業と考えます。</p> <p>北陸新幹線は、大都市東京・大阪間を日本海側で結ぶ新たな国土軸として国土の均衡ある発展に寄与する路線であるとともに、東海道新幹線の代替補完機能を有する重要な路線であり、国家的プロジェクトであります。本市をはじめ丹南地域にとっても、地域の活性化の起爆剤として、産業、経済、観光、文化などの面で飛躍的な効果をもたらすことが期待されるものと考えております。</p>
<p>庄田町の幹線道路の一部で未改良箇所があります。せっかく前後の道路には広い歩道があるのに、全く利用出来ていないので、行政（職員含む）の無駄ではないか。</p>	<p>・本路線は、都市計画道路宮谷庄田線であり、市街地を東西に連絡する重要な幹線道路であります。当路線は一般県道菅生武生線でありますので、市は事業者である県に対し、未整備区間の早期整備を要望しております。</p>
<p>越前市は東西の交通ネットワークが弱く、戸谷片屋線の整備を早急に行なってほしい。</p>	<p>・(都)戸谷片屋線は、本市の東西を結ぶ最重要路線であり、交通の円滑化及び産業の進行を図るため県及び市において事業を実施しています。早期に整備できるよう、国・県に要望しているところであります。</p>

【市民主体によるまちづくりについて】

意見概要	考え方・対応
<p>福井高専や武生商業高校などが集まっている家久駅周辺を整備すべき。若者が集まって文化活動をする場があれば、せっかくの人材が県外へ流出してしまうのはもったいないです。</p>	<p>・ご意見にありましたように、文化・産業都市にふさわしいまちづくりを実現するためには、福井高等専門学校や武生商業高校及び市民グループ等の豊かな人材の、積極的な参画が必要であると考えております。</p> <p>・また家久駅周辺の整備については、住みよい街づくり推進条例や都市計画法の地区計画を活用しながら、市民主体による良好な住環境の創造に対して支援して行きたいと考えております。</p>

【実現に向けてについて】

意見概要	考え方・対応
<p>中心市街地は空洞化が進んでいる。今回、中心市街地活性化計画が国に認定されたのに、なぜ新庁舎を郊外に計画しているのか。</p>	<p>・中心市街地の活性化については、昨年11月に福井県で始めて、福井市と並んで全国で19番目に基本計画の国の認定を受けたものであり、この計画に基づき、まちなか居住とまちなか観光の推進、賑わいの創出などを市民の皆様と行政が協働して行い、活性化に取り組んでまいります。</p> <p>新庁舎につきましては、市町合併協議の内容を尊重し、計画的に基金を積み立てております。</p>

【まちづくりの基本目標について】

意見概要	考え方・対応
<p>まちづくりのテーマを「橘曙覧の歩いた道」として、中村病院の前から、有明交番、深草郵便局を經由し、本保へ向かうルートを考えてみてはどうか。</p>	<p>・都市計画マスタープランにおけるまちづくりのテーマは、市全体のまちづくりに対する考えをイメージ化するものであり、本市は、市民と行政の協働、市民の主体的なまちづくりを推進すること、市民が誇りをもって住み続けられ、また誰もが住みたいと思う、魅力と風格の漂う越前市の創造を目指し、まちづくりのテーマ「市民が育む”風格のまち”越前」としたところであります。</p> <p>・なおご意見にありましたルートについては、中心市街地活性化基本計画におけるまちなか回遊コースの一部として位置付けております。</p>

【パブリックコメントについて】

意見概要	考え方・対応
<p>パブリックコメントを実施していることが新聞に出ていたが、もっと多くの市民がわかる方法で知らせてほしい。</p>	<p>・市民パブリックコメント制度に基づき、市内全域の広報紙(12月号)や市のホームページ、丹南ケーブルテレビ「越前市情報ナビ」の文字放送(19日間 7:30 12:30 19:30の3回/日)により、市民の方々にパブリックコメントを実施する旨のお知らせをしております。今後もさらに周知に努めてまいります。</p>